

7/1 **関** 新たな地域おこし協力隊を委嘱
関係人口創出と地域資源活用に取り組む

市で新たに活動する地域おこし協力隊員の永石智貴さん(写真:左)と鬼海祐樹さん(写真:右)の委嘱状交付式が市役所で行われました。

永石さんは飛騨市の関係人口創出のためのプログラム開発や飛騨市ファンクラブイベントの企画・運営などを手掛けます。

鬼海さんは、宮川町の地域資源を活かしたまちづくりや観光資源を活用した観光地のPR、保全保護活動などに取り組みます。

永石さんは「どんなことでも住民のお手伝いをしていきたい」、鬼海さんは「多くの方々に宮川の魅力を発信していきたい」と話しました。

二人に委嘱状を手渡した都竹市長は「大事なのはチャレンジすること。好きなことを何でもやってほしい」と激励しました。



※撮影時はマスクを外しています

7/3 **書** 内閣府辞令専門職・書家の茂住修身さんへ市から感謝状を贈呈
書を通じた故郷への貢献に感謝を伝える

市では書を通じた故郷への貢献に感謝し、「令和」の書を揮毫された古川町出身の内閣府辞令専門職で書家の茂住修身(雅号菁邨)さんに感謝状を贈りました。

茂住さんには市内小学校への書道の指導、飛騨古川まつり会館内の「静」「動」の書、根尾昂選手の飛騨市後援会の会員証にあしらった「昂」の字などを揮毫していただきました。

3日に市役所で贈呈式を行い、都竹市長が茂住さんに感謝状を手渡しました。

茂住さんは「作品を多くの方々に見ていただけるのは書家としてとてもうれしい。これからも飛騨市に貢献していきたい」と話されました。



7/4 **親** 多機能型通所支援事業所「HABILIS-HIDA」開所式
親子に合わせた療育を提供

障がいのある子どもが通う多機能型通所支援事業所「HABILIS-HIDA(はびりす・ひだ)」が、古川町向町地内に完成し、開所式が行われました。

同事業所は、NPO法人「はびりす」(大垣市)が運営し、作業療法士や理学療法士が常駐し、それぞれの親子に合わせた療育を提供します。

同事業所には、鉄骨平屋建てに天井から吊るした遊具、ボルダリングのできる壁などの運動用の設備や、芸術的な作業活動ができるスペースが整備されています。

開所式では、同法人の山口清明代表が「行政と地域と協力して、子どもたちのリハビリ施設として発展させていきたい」とあいさつされ、都竹市長らと一緒にテープカットを行い、開所を祝いました。



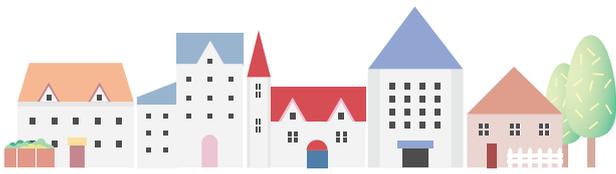
7/28 **災** 災害時における宿泊施設供給に関する協定書締結式
災害時の避難所確保で宿泊施設を活用

災害時において新型コロナウイルス対策が求められる中、避難所で「3密」を防ぐため、飛騨市旅館組合(柴田駿一組合長)と流葉観光開発協働組合(大岩博和理事長)との間で、災害時の連携協定を締結しました。

協定では、市の避難所が収容を超えた場合、避難所の密集を避けるため、組合を通じて宿泊施設を一時的な避難所として活用するものです。

28日に市役所で協定締結式が行われ、都竹市長、柴田組合長、大岩理事長とそれぞれ協定書を取り交わしました。都竹市長は「過去の災害でも宿泊施設が大きな助けになった。今回の協定を機にさまざまな形で連携を深めさせていただいて、災害時の市民の皆さんの安全・安心に繋げていきたい」とあいさつしました。





7/31

飛騨市で獣医学部(科)生インターンシップを受け入れ 飛騨牛生産の現場に触れる

今年4月から開設している飛騨市家畜診療所で7月27日から受け入れていたインターンシップ、岐阜大学応用生物化学部共同獣医学科5年阿部範子さんが31日、都竹市長に研修終了を報告しました。

同診療所は、高山市にあった飛騨農業共済組合が県農業共済に統合され解散したため、飛騨市独自で家畜診療所を開設したものです。

阿部さんは27日から3日間、市の獣医師に同行し、牛の妊娠検査や健康チェックなどを獣医師立ち会いの下で行いました。市内のほぼすべての農家を回り、骨折の治療や帝王切開後の経過観察も見学しました。

阿部さんは都竹市長に「牛のプロの扱いやいろいろな症例を見ることができて良い体験になった」と話していました。



市民ライターがまちの話題をお届け!!

広報ひだまち特派員レポート

5月から採用している市民ライター「広報ひだまち特派員」が市内のさまざまな話題をお届けします。
(特派員：小林 淳子・岡田 直樹)

7/18

飛騨市の大切な自然財産を守る 池ヶ原湿原でボランティアによる「ヨシ刈り」

ミズバショウなど貴重な湿原植物が見られる宮川町の池ヶ原湿原で18日、奥飛騨数河川流域自然公園促進協議会が「ヨシ刈り」を行い、地元住民やボランティアら約30人が汗を流しました。

この日はあいにくの雨降りでしたが、ボランティアの皆さんは雨具を着込んで、背丈ほどもあるヨシを次々と刈り取り、一輪車や抱きかかえて駐車場の仮置き場へ運び出していました。

同協議会の井口浩徳会長は「昨年は木道や駐車場も一新されました。大切な観光スポットなので、今後も環境保全に努めたいと思います」と話していました。
(特派員 岡田 直樹)



7/27

百歳おめでとうございます 白井きぬさんと仲田キヌさん! 100歳万歳!

古川町大野町の白井きぬさん(大正9年7月27日生)(写真:上)と神岡町東町の仲田キヌさん(大正9年7月25日生)(写真:下)が百歳を迎えられました。これに合わせ、市民福祉部の藤井弘史部長らが施設を訪問し、花束とお祝い金を贈りました。

白井きぬさんは、高山市国府町生まれで古川へ嫁がれました。提灯づくりをされていたご主人が亡くなられてから一人暮らしとなり、現在は、「あいらす大野」で生活しています。

娘の水谷順子さんは「それまでは提灯づくりの手伝いや田畑もやり、働き者の優しい母です。昔から好き嫌いなく食べていた母は何があっても我慢強い人です」と話されました。

当日は施設の職員さんに着物を着せてもらって涙ぐむ姿もあり、入所の皆さんとのお祝いのひと時を楽しまれました。

仲田キヌさんは、ご主人と共にクリーニング店を20年程営まれ、ご主人が亡くなられてからも1人でクリーニング店を続け、お年をとられてからクリーニングの資格まで取りこいた頑張り屋さんです。現在は「特別養護老人ホームたんぽぼ苑」で生活しています。

この日は、遠方でかけつけられない次男ご夫婦とビデオ電話でのやりとり。お互いに元気な姿を確認し合い「服がよう似合ってる! 元気そうやなあ!」と交流し笑顔のキヌさんに画面上でお祝いを伝えられました。

息子さんは「働き者の母は体が弱かったように思えたがここまで長生きしてくれて嬉しい。施設の方にいろいろ見ていただき感謝しています」話されました。キヌさんは「こんなふうに祝ってもらってありがたい」と笑顔で話されました。
(特派員 小林 淳子)

